

秋の夜長を KIRINJI、ミツメらが彩る！『SONO SONO in the moonlight』

10月21日（金）には、大阪城音楽堂で連日開催されている「LIVE GUMBO PARK」の一つ、「SONO SONO in the moonlight」が行われました。

「SONO SONO」とは“園”と“苑”、2つの文字をつなげたもの。この日は、秋の夜長、月光の下で心地よく音楽を楽しもう……そんなテーマのもと、KIRINJI、ミツメ、オープニングアクトのBALYSTOCKSの3組が集まりました。

まだ少し明るさの残る夕暮れ時、FM802のDJ、土井コマキさんがナビゲーターとして登場。

「この組み合わせは奇跡的。最後までゆっくり楽しんで帰って」とメッセージを送ります。

会場内にはキッチンカーが設置されており、コーヒーなどのドリンクはもちろん、キューバサンドやクラムチャウダーなど食事も用意。心もお腹も満たしながらライブを楽しむことができます。

トップバッターとして会場を温めたBialystocksは、ボーカル・ギターの甫木元空さんとキーボードの菊池剛さんによる2人組。鍵盤とボーカルだけでしっとりと聴かせる「日々の手触り」を皮切りに、2曲目の「Winter」では静かにギター、ベース、ドラムが加わり、徐々に分厚いアンサンブルを生み出していきます。すっかり暗くなった空に響き渡るハイトーンな歌声と変幻自在なキーボード。「最後までゆるゆると楽しんでいただければと思います」との挨拶を経て、最後は「Over Now」で締めくくりました。



続いてミツメがステージへ。ギター・ボーカルの川辺素さん、ギター・シンセサイザーの大竹雅生さん、ベースの nakayaan、ドラムの須田洋次郎さんからなるバンドで、インドネシアや中国、アメリカなど国外でのライブ活動も展開してきました。1曲目の「スペア」から、涼やかな歌声と心地よい音で、一気に観客の心をつかんでいく4人。川辺さんは「今日はいいい天気で気候もいい中、こうして野外で演奏ができてうれしい。思い思いの形でお楽しみいただいたら」と呼びかけます。不思議な透明感を感じさせるギターサウンドは、秋の夜と絶妙にマッチ。ラストの「エスパー」まで全9曲を、観客は心地よさそうに肩を揺らしながら聴き入っていました。

トリを飾ったのは、2021年から堀込高樹さんのソロプロジェクトに生まれ変わり、新たな活動が注目を集めているKIRINJI。冒頭「今日はイケてる人たちと対バンできて非常にうれしいです」と挨拶しつつ「寒くないですか？」と観客を気づかした堀込さん。この日は2人のキーボードとギター、ベース、ドラムを加えた6人編成で、新旧織り交ぜたラインナップを聴かせました。『非ゼロ和ゲーム』から始まったライブは、最新チューンの『Rainy Runway』やプロレスを題材にした懐かしの『悪玉』など、どこかねじれた珠玉のポップミュージックが連発。「今年は東京でしかワンマンができなかった。来年は、また大阪でもワンマンができたらと思っている」と抱負を述べ、最後の曲『時間がない』を披露すると、会場は大きな拍手に包まれました。

